

別記様式

会 議 議 事 録

審議会等の名称	平成26年度 第1回 磐田市環境市民会議 議事録
担当部課名	環境水道部 環境課 (内線 3126)
会議の開催日時	平成26年11月4日(火) 午前10時00分～午前11時30分
会議の開催場所	市役所西庁舎 3階 特別会議室
出席者(職・氏名)	<ul style="list-style-type: none">・委員15名(出席者15名) 佐藤 和美、神谷 五郎、川島あつ江、山下 宏子、高木 浩三、 酒井雄一郎、鈴木 昇、渡辺 智哉、溝口 徳、安田 博俊、 大塚 由幸、山浦 征夫、永田 清也、守屋 尚密、岡部 秀哉 (敬称略)・(事務局5名) 環境水道部長、環境課長、環境保全グループ長、 環境保全グループ主査(2名)
議 題	<ul style="list-style-type: none">・委嘱状の交付・会長及び副会長の選出・平成26年度環境関連施策の実施状況について・磐田市の環境行政について・意見交換
配付資料等の件名	<ul style="list-style-type: none">(1)平成26年度 第1回磐田市環境市民会議次第(2)平成26年度 磐田市環境市民会議委員名簿(15名)(3)第1回磐田市環境市民会議席次表(4)資料1 環境目標・取り組み方向・取り組み項目別内容等一覧表(5)資料2-①～2-⑨ 平成26年度 環境関連施策の実施状況(6)わたの環境施策と団体等の紹介(7)だいすき!太田川
概 要	※会議の発言内容、審議経過等を記載 会議(司会:環境課長)

質 疑 ・ 応 答	<p>(1) 開会（環境課長）</p> <p>(2) 委員への委嘱状交付</p> <p>(3) 環境水道部長あいさつ</p> <p>(4) 委員自己紹介及び職員紹介</p> <p>(5) 会長、副会長の選出 会長に佐藤和美氏、副会長に神谷五郎氏を選出した。</p> <p>(6) 佐藤会長あいさつ</p> <p>(7) 議事（議長：佐藤会長）</p> <p>〈1〉平成26年度環境関連施策の実施状況について</p> <p>【説明概要】事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局より資料1「環境目標・取り組み方向・取り組み項目別内容等一覧表」及び資料2「平成26年度環境関連施策の実施状況」に基づき、環境目標毎に具体的な取り組み項目について説明した。 <p>〈2〉磐田市の環境行政について</p> <p>【説明概要】事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局が「いわたの環境施策と団体等の紹介」に基づき、内容説明をした。 <p>【質疑意見①】委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・再生エネルギーの買い取り拒否とか問題は起きていないか。 <p>【回答①】事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞記事で出ているが、買い取り拒否を表明しているのは、九州電力を入れて5社と聞いている。中部電力はそのようなことは起きていないで、従前通り買い取りが行なわれている。 <p>【質疑意見②】委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・磐田市では、10kw以上の買い取り補助金を打ち切ったことが、国の報道に対応したような感じになっているが、会議資料では、10kw以上は予算枠に達したので、そのような報道になったと思ったが、来年度も補助金を考えているか。 <p>【回答②】事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10kw以上の事業所の太陽光発電補助金は、磐田市では今年度で終了
-----------	--

した。国の買い取り制度を受けての廃止ではなくて、当初からの予定で2年間の補助で、計画的なもので、国の買い取り制度とは関連は無い。磐田市では、27年度の10kw以上の補助は無くなる。

【質疑意見③】 委員

- ・ 磐田エコパークの関係で、ロケーションが心配だ。津波の関係はどうか。

【回答③】 事務局

- ・ 磐田市では、津波の防潮堤を今年度から着手している。高さ14メートルを30年計画で整備する予定である。27年度最初に着工するのが、海洋公園のすぐ前から着手するので、一番最初に津波の防潮堤ができる。

【質疑意見④】 委員

- ・ 土の手当は大丈夫か。

【回答④】 事務局

- ・ 太田川の浚渫土を防潮堤に使う。経費の関係で利活用を図ることを計画している。

【質疑意見⑤】 委員

- ・ 間に合わないよう気がするが。超伝導のリニアモーターカーと関連が何かしら出来るのではないか。太田川だけでは、30年たっても出来ないではないか。

【回答⑤】 事務局

- ・ 意見を危機管理課に伝えます。

【質疑意見⑥】 委員

- ・ エコアクション21で、認証したことをどのようにしているのか。

【回答⑥】 事務局

- ・ エコアクション21の全国事務局のホームページに出ている。

【質疑意見⑦】 委員

- ・ 磐田市内に積極的な行動はしていないか。

【回答⑦】 事務局

- ・ していません。

〈3〉意見交換

【意見①】委員

- ・先週ボランティアで参加した J C が企画したサイクリングでは、100 キロコースを 200 名以上が走った。35 キロコースで 35 人走った。全国から来ているので、外から人を呼び寄せる方式の環境整備を考えたらどうか。ホタルの里が、要所、要所にあるとか、里山が整備されているような、人間の心に触れるような場所を設定したらどうか。川もたくさんあるし、観光施設として整備して行く上で、全国から注目して来てもらう形にした方が、皆潤う。サイクリング大会は、九州、関東圏、京都など全国津々浦々から来ている。全国から目的を持ってきている感じがした。

【回答②】事務局

- ・11 月 16 日にジュビロマラソンがある。これも相当県外から来ている。このように健康づくりのものをやるとたくさんの人を呼べる。磐田市の一番代表的な環境施設は、桶ヶ谷沼ビジターセンターになる。市外、県外からたくさんの方が来ている。このよう施設を市外、県外に P R して行きたい。

【意見②】委員

- ・磐田は、自然も歴史も、環境もある。説明にあったように太田川流域が非常に多く恵まれている。桶ヶ谷沼、はまぼう、ひょうたん池も全部流域にある。昔から歴史的にこの流域は水害、地震が多い。小学生のアースキッズはいいと思うが、それが家庭とか大人にも工夫されているのか、環境問題は、子供たちを良くしても、全体はだめだと思う。これがうまく行くと磐田市は素晴らしいと思う。二酸化炭素でも報告ではすべてパスしている。これをトップダウンで、住民が「磐田市が素晴らしいことをやっている」ことを認識して、はじめてよくなる。子供たちだけでなくこれからどうしていくか、これから市民が、磐田は素晴らしいところだ、行ってみたい、住んでみたいというふうになる感じがする。アースキッズの後のことをお願いしたい。

【意見③】 委員

- ・夢は広がる。来て下さるという環境づくりをすればいいだけのことだが、ただし継続が出来ないので、どこかで、ホタルがあると言っても面倒を見ることができない。面倒をみる競い合わせをいっぱい作って、花壇がコンクールをしていると同じで、ホタルがいっぱいいる所を競い合って作ってもらえれば、全国に発信できる。

【意見④】 委員

- ・ひょうたん池の場合は、スタートを個人で初めた。昔は田んぼが多かったため、ヘイケボタルが飛んでいたが、現実はどこにもいない。ひょうたん池の場合は、ゲンジボタルを飼育しようとして、最初はホタル部長が非常に苦勞した。掛川の下垂木はいい環境で育て、最近になっていろいろな所で、ホタルの飼育をして、皆に見てもらおうような状況になっている。豊田の人たちや松原の人たち、豊岡の人たちがやっているが、豊田と松原の人と一緒にほたるサミットを年一回やっている。そこでホタルの育成の状況とか飼育をどのようにしていくか意見交換をしている。自然の発生というのは、非常に難しい状況だ。昆虫館でもやっているが、ホタルを発生させるためには、各個人で飼育して、育てて、それを放流している状況だ。今年は会で、6,000匹の放流をしたが、現実にはほたるになったのが、外で放流したのが1,000匹で、80匹くらい。飼育舎の中で4,000匹放流して、現実多い時で200匹くらい一度に出た。3年間は順調にきているが、問題は、ホタルの幼虫を育てること、卵を500から1,000くらい産むが、そのときからどのようにエサをくれているのか、孵化したときにエサのカワニナがないと全部だめになってしまう、それが一番の苦勞だ。稚貝を食べさせることをして、個人が毎日管理しているが、育てる人がいないとかなかなか広がって行かない。今7人くらいでやっているが、昨年多い人で3,000匹育てたが、そこまでの過程が大変だ。カワニナを育てるためにエサが必要だ。カワニナにはレタスの葉がいいということ聞きながら、昨年カワニナを増やす事業をしたが、一年で大きくなるわけではないので、

なかなか増えて行かない。ホタルの幼虫に与えるえさの方が大量に欲しくなるので、田んぼの生活雑排水がある所は、カワニナがたくさんいる。それとかコンクリートのところにいる。田んぼの所にはほとんどいないので、そのような所にカワニナを取りに行き、ホタルのエサとして与えている。これが一年間続くかどうかだ。冬場に減るので、それを乗り越えることによって2月末にほたるの幼虫を放流して、3月中頃にそのホタルが陸に上がって、土にもぐって45日経ったら成虫が発生する。そのような仕組みが出来ているが、スムーズに行けばいいがなんとも言えない。その年その年でだいぶ変わる。ホタルの幼虫を育てくれる人がたくさんいれば、どこに行ってもホタルが発生することができる。毎日誰かが必ず見ている。それを継続的にやれるかどうかだ。14年ぐらいやっているが、皆頭を痛めているところから情報を集めて、焼津から先生に来てもらっている。水道水でも育つことはできるので、水の心配はなくなる。水を溜めて循環させて、それで幼虫を育ていく。

【意見⑤】 委員

- ・磐田市の環境美化指導員を今年からやっているが、資料をみるとほとんど小学生以上で、幼稚園の園長先生と話をすることがあるが、幼稚園児から出来るようなことをやっていたら。ゴミを拾っても拾ったばかりなのに、又落ちているとがっかりすることがある。やっているのは大人だと思うが、小さいころから教育をやっていくともっと良くなるのではないかと思う。それと確かに外から来てくれる人を求められているが、生活する中で自分たちがまず楽しむ、毎日の生活の中でリズムを作れるような環境を作ることが非常に大事だ。自分たちが、これから高齢者も増えるし、そのような人があらためてやるのではなくて、毎日の生活の中でそこに行けば健康が作られるようなまちづくりが非常に大事だと思う。

【意見⑥】 委員

- ・去年孫がアースキッズ事業をやって、今6年生であるが、エコ委員会が出来ていて、家に帰ると電気を消される。下の子供たちにエコ

委員会で言っていたと話している。市の事業がしっかり次につながっている。消費者協会でも、小学校、中学校では、途中から入れないので、幼稚園でゴミの分別、ご飯を残さないなどの話をしている。太陽エネルギーの関係で、南島に気象庁のアメダスがあるが、これは何かと言っているなので、もう少しPRすれば、小中学生に分かってもらえる。

【意見⑦】 委員

- ・温暖化の関係で、幼稚園小中学校から環境教育をするほうがいいという話が出ているが、CO₂の排出量は、事業所は努力しているので、下がっている。家庭部門がぜんぜん下がらない。その原因として、核家族化とか単身世帯とか、機械一つづつのCO₂の排出量は減っているが、大型化することによって減り方が少なくなっている。家庭部門が思うように減っていかない。県もどうしたらいいのか考えている。アースキッズも全県で、35市町が取り組んでもらうようお願いしている。なかなかやってくれるところが少ない。非常に効果があるということで、継続的にやっていきたいと思っている。そこで途切れると家庭部門がなかなか減らない。大人たちが実行していくと助かると思う。

【意見⑧】 委員

- ・エコアクション21の認証した企業を公表したものをもっと磐田市民に分かるように伝えればいいのかと思う。できればアースキッズと連携を持たせ、磐田市の会社の中でこのような活動をやっているとかそのような教え方をして、子供たちが自分たちの親の会社ではどうしてやらないのか。自分たちの親の会社はやっているとかそのようなつながりができていくと今度は家庭でエコが動き始めるのではないかと思う。エコアクション21を取る事業所はCSR活動とか企業価値評価に関係してくる。事業所の企業価値評価と別の時点で、アースキッズ事業と連携を持たせながら、磐田市の一つの方向ではないかと思う。

【意見⑨】 委員

・いろいろないい形で、やっても外に対してどうアピールするのが欠けていると、自己満足で終わってしまう。うまくマスコミを使う、テレビ・ラジオ・インターネットを積極的に使っていないと磐田が今何をやっているのかこれからこう取り組むとか、共感してくれるという感覚が無くなる。環境についてどうアピールしていくかを真剣に考えたほうが、我々も元気になる。皆やる気が出てくる。イベントがあることをラジオで言ってもらったり、新聞に出た頻繁に出さないと、他も一生懸命やっている。お金を使わなくても面白いことがあったり、ニュースソースとしていけるのなら、来てくれる。こちらからどう流すかだ。

【意見⑩】委員

・自分の会社は全国にいろいろな工場がある。それぞれの工場の情勢のやりとりの中で、いいなあと思うことは、報奨制度が充実している事業所があり、そこを行政が取り上げて全国に発信して、マスコミに取り上げて、市に金を使うことなく効果的に宣伝活動出来るのではないかと思う。いい事例はいい事例で取り上げて、エコアクション21でやっているのを言うのもいいが、悪い所も是正していかなければならない。それを取り組みとしてちゃんとやっていかなければならない。苦情件数など市民から吸い上げて、やっていくべきだ。データを見て、廃棄物の苦情、不法投棄の苦情が非常に多い中で、予算で、廃棄物不法投棄対策が25年度対比減っていることが、市民の声とかい離していると感じる。そのようなところにも耳を傾けて、いいところは、いい。悪い所はちゃんとやっていくと言えるような施策になっていければと思う。

(8) 閉会（環境課長）

・環境課長が閉会のあいさつを行った。なお、次回の第2回環境市民会議については、3月を予定しているのでよろしくお願いします。